

SSKR まうんてんえこお

No.312

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL (03) 3998-5023 FAX (03) 3998-5035
http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/

山彦作業所 (就労継続支援B型)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL (03) 3998-5023 FAX (03) 3998-5035
Email : ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

山彦相談支援事業所 (相談支援)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX (03) 3970-2365
Email : ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

やまびこ第二作業所 (就労継続支援B型)

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL (03) 6904-3411 FAX (03) 6904-3413
Email : ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所 (相談支援)

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL&FAX (03) 6906-9803
Email : ymbk2-soudan@xvd.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井 (就労継続支援B型)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL (03) 5923-9811 FAX (03) 5923-9812
Email : yamabiko@shakujii-work.jp

チャレンジワークやまびこ (就労移行支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL (03) 5923-9864 FAX (03) 5923-9865
Email : challenge@shakujii-work.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所 (相談支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL (03) 5923-9818 FAX (03) 3997-3650
Email : wkcs@kzh.biglobe.ne.jp

やまびこ三原荘 (共同生活援助)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL (03) 3978-6352 FAX (03) 5935-6320
Email : miharaso@mue.biglobe.ne.jp

目次

表紙 新年の挨拶

P2 山彦・やまびこ第二 近況

P3 ワークショップ・

チャレンジワーク 近況

P4 三原荘・相談近況

P5 やまびこ第二・

建物内覧会の報告

P6 署名のお願い

P7 やまびこのペン(職員より)

P8 やまびこのかぜ(ワーク)

謹賀新年

理事長 坂元 信幸

あけましておめでとうございます。本年も
よろしく願っています。

2022年は、社会福祉法人練馬山彦福祉
会にとって長年の懸案であった二つの事項に
一応の決着がついた年でした。

この数年移転問題で行き場が決まっていな
かったやまびこ第二作業所が、ようやく10月
に田柄に移転することができ新施設での活動
が開始されました。この建物は、NPO法人
練馬区障害者事業所が区有地に建物を建て、
その一部を練馬春日町幼児教室とやまびこ第
二作業所が借り受け、共同で利用する形式と
なりました。3団体の新たな関係作りが、地
域の障害者福祉の向上に資することが期待さ
れています。

山彦作業所についても、建物老朽化が進み
大規模修繕の必要がありました。練馬区か
らこの建物を買取り大規模修繕に向けて取
り組みを進めています。

一応の決着は見ましたが、やまびこ第二作
業所については家賃が発生し、現行の家賃補
助額以上の負担が発生することになりました。
山彦作業所についても多額の改修費用が必要
であり、いずれも運営の圧迫要素となってい
ます。引き続きの新たな課題として取り組
む必要があります。

2022年を振り返ってみると、3年続け

ての新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れた年で
した。法人内でも感染者が続発し、利用者
家族、職員共々対応に追われました。右往左
往しながらの1年ではありましたが、関係者
の努力、協力により何とか乗り切れた1年で
した。2023年に向けても対策の徹底や、
情報の共有等を図り、安心安全な施設運営に
取り組んでいきたいと思っています。

広く社会に目を向けると、歴史に残るよう
な大事件があった年でもありました。
ロシアのウクライナ侵攻から始まった戦争は
今も厳しい状況にあります。国内では元首相
の暗殺と、そこから派生して宗教団体と政治
との根深い関わりに驚かされました。
先行きの不安を感じることが多いのですが、
最後に二つの期待の持てることに触れたいと
思います。

第1には国連障害者権利条約に関して、日
本への総括所見が9月に出されました。今後
の障害者施策の大きな指針として期待が持て
るものになっています。政府の受け取り方
はかなりの不安も感じますが、施策推進
の大きな力になるものと思います。

第2には現在法人では中長期計画の策定に
取り組んでいます。その中でも法人理念の再
検討を行っていて、役員、職員ともに新たな
取り組みに向けて議論を進めています。新年
を向かえるに当たって、新
たな取り組みを進めていき
たいと思っています。



山彦作業所近況

十月から産休代替職員として勤務している阿久津です。前職は神奈川県小田原市で梅、みかん、キウイ等の果樹栽培に携わっていました。果樹農業では草刈り、剪定等植木職人にも近い仕事が付き物です。その経験から山彦作業所の業務では公園清掃を主に担当しています。落ち葉掃き、ポイ捨てゴミ回収、トイレ掃除がメインの作業で最初は時間内で終わるのか不安もありましたが、利用者達・職人達のスペシャルな能力によって園内が綺麗になっていく様はとっても爽快な気分になります。今回はその職人達の紹介です。

まずはAさん。彼女は清掃の基本道具ともいえる「箒」を手にしません。その代わりに「トング」を持って広い園内のゴミ（吸い殻、空き缶、ペットボトル等）を分別しながらテキパキと回収します。公園には近隣の保育園児達が遊びにくるので、吸い殻一つ残らない仕上げがありがたい。

次にKさん。彼は徐々にエンジンがかかるタイプですが、落ち葉掃きがノッてきた時のスピード感、丁寧さは一般の植木屋より妥協がない。エースは後半に決めてくれるという感じでしょうか。彼が掃いたブルーノ周りはいつもスッキリ。

そして、トイレ清掃を率先してやってくれるSさん。清掃中の時間は近所の作業員の方々がトイレを利用する時間でもあり、その都度手を止めなければなりません。「どうぞ！」、「ありがとうございます！」「苦労様！」とほっこりコミュニケーションが生まれています。もちろん仕事も丁寧です。



（阿久津）



やまび第二作業所近況

キレイにしよう

9月の移転から3ヶ月が経とうとしています。区長訪問や施設内覧会、または健康診断等とあり、落ち着くことがなく慌ただしい日々を過ごしている印象です。作業も定例のものが多く、切れることなく続いているので、それはありがたいことなのですが、レイアウトや内部の工夫等が後回しになっていきます。以前より、新しい建物になったら、「今度こそキレイにしたい」との思いがありました。汚れが目立ち、雑然としているのは、建物が狭いからで、新しい場所なら・・・と思っていたのですが・・・どうやら建物の問題ではなくて、そこにいる私たち職員の問題だったのかも・・・と最近になって気づき始めました。

なり評判もよくて、みな楽しみにされているようです。元はと言えば、以前給食サービスで関わっていたいたいたボランティアさんが、年末用に用意してくれていたことに始まります。給食も豪華でその後のデザートとしてケーキが用意されていたのです。今思うと感謝の気持ちしかありません。給食サービスがなくなつた後も、年末にはケーキだけはいつもありました。みな大喜びで食べていて、わざわざ食べに遠くから通ってくる方もいたほどです。それほどの楽しさ。と言うのはある意味、ケーキを食べる機会が少ないことを意味しているようにも感じました。

ボランティアさんからのケーキの後は、地域の方からのケーキの寄付もありました。とてもありがたかったです。つい最近まであったのですが、コロナにより無くなつてしまいました。コロナ以降は、作業所が用意するようになりました。その資金は所内でお茶を販売している財源でまかなっています。

クリスマスケーキ



どんなにイライラして怒っていても、何故かケーキを食べるとニコニコしてしまう。そんな場面をよく見かけます。怒りながらケーキを食べる人はいないようです。また今年もその準備に入っています。

（池田）

ワークショップ石神井 近況

ワークショップ石神井では、月に1回第二水曜日の午前中に学習会を行っています。

今回はその中から絵画の様子をお伝えしたいと思います。

絵画では、用意したモチーフ(花や置物、自主製品の作品などなどその時によって違います)を描くことが中心ですが、モチーフではなく、自分の好きなものを描いたり、大人の塗り絵もやっています。塗り絵は絵を描くのがあまり得意でない人でも、比較的気軽にできることもあり、好評です。

参加するメンバーは、それぞれ自分でやりたいことを選んで作品作りに取り掛かります。時々「ここは何色がいいかな」「こうやって塗るときれいだよ」などと言葉を交わすことはありますが、ほとんどの人が黙々と取り組んでいます。

同じモチーフを使っても、描く人によって表現は様々です。鉛筆だけを使って細かく描く人、いきなり色鉛筆で大胆に塗っていく人。写真のモチーフを描いたKさんはいつも白

いところが無いよう隅々までしっかりと塗ります。塗り絵の塗り方も人それぞれ。左の写真では分かりにくいですが、Hさんの塗った富士山は青ではなく茶色。山だから茶色です。最後はその日取り組んだ作品を見せ合い、頑張ったところ、難しかったところなどを発表します。2時間ほどの製作時間では出来上がらないこともあるため、何か月もかけて一つの作品を仕上げる人もいます。作業とは違うひと時、メンバーは思い思いに作品に取り組みリフレッシュしています。

(渡辺)



この日のモチーフは
クリスマスツリーとリース



大人の塗り絵(富士山)

チャレンジワーク 近況

就労すること、その定着は業務遂行の能力が優れていれば有利というわけではありません。職場環境や職場内のコミュニケーション、生活場面等も就労の安定を支える大きな要素になることがあります。

今回は学習プログラムのひとつSST(ソーシャルスキルズ・トレーニング・社会技能訓練)を紹介します。

職場を想定した場面や生活における事例を元に、自分の考えや行動を挙げ、他者の考えを知り、考え方のレパートリーが増えることで、社会生活でより柔軟に活かしていけるよう学びます。いろいろな考え方や見方を知ることができます。

この学習会は、まずは自分の考えを出すこと(発信する)を大事にしていて、最低限のルールがあります。言いたくなければパスしてよいこと、他者の否定はしないことです。こうして本人が主体的に参加することへ繋げていきます。言いたくないこと

の強要や、勇気を持って話したことがその場で否定される状況からは、本人の声が出づらものです。集団の中でも自分の想いを確認し発信していく経験、その過程を事業所では大切に考えています。

こうした自己発信の積み重ねの中で相手への伝え方や距離感や傾向、社会風習などの学びを得て、ざっくりばらんな想いを話し合いながら、

「こんな時に他の人はどう思うのか」「この言い方はとても感じが良いな。自分も取り入れてみよう」と、本人

なりの気づきの機会となっています。自分にとって「いいな」と思う部分を取り入れて、それを活かせることができるように、思考の整理やパートナーの柔軟性、他者の尊重など、何でも無い話題にもヒントはいくつも隠れています。そうした時間を共

(この日のテーマ)

- ・悩みを溜めない方法
- ・忙しそうにしている相手への質問の仕方



やまびこ三原荘 近況

11月に女性入居者1名が、三原荘の通過型に入居されました。三原荘本体の女性ユニットは、しばらく3名でしたがこれで4名となり満室となりました。三原荘全体としても滞在型9名、通過型8名の定員17名すべてが埋まる形となりました。

三原荘本体の女性のユニットでは、早速ミーティングを実施し、お風呂の入る順番や食堂の使い方や共同生活を送る上での決まり事をみんなで確認しました。三原荘では、各フロアのルールは別々で、決まったルールというものはありません。人が入れ代わる度に、みんなが過ごしやすいルールを入居者同士で話し合って決めていくということを行っています。

病気や障害があることに関わらず、私たちは誰でも得意なことや苦手なことがあると思います。「私は掃除が苦手」「私はゴミ出しが得意」「私は料理が得意」等。必ずしも苦手なことをできるようになる必要があるわけではなく一人一人ができること、できないことを補い合って生活していくことが共同生活

ではとても大切です。初めはお互いに気を使ったり、緊張する事もあると思いますが、お互いに良い刺激を持ちながら生活に慣れていくって欲しいと思います。

次に12月5日に、三原荘の防災点検があり、自動火災報知設備と各階、各室の感知器等の作動試験、火災通報装置の作動試験、消火器、誘導灯の点検を行いました。

その後、入居者、職員で消火器を使った消火訓練を行いました。今回は練習のため、消火器の中には水が入ったものを使用して、消火器を持つて的の板に目がけて放水します。実際に火はなかったのですが、全員上手く的の板に命中させることができました。消火器を使うことは、普段の生活ではなかなかないことなのでとても貴重な経験になったと思います。（世話人 青柳）



消火訓練。的にめがけて放水！

相談支援事業所近況

就労継続B型と兼務の相談支援事業所は少なくないのですが、その場合は法人内の利用者に限定しているところがほとんどです。山彦福祉会の相談支援事業所は法人内の事業所以外の利用者も受け持ちながら、障害種別も特定せずに様々な地域の方の担当をさせて頂いています。そのようなスタイルの相談事業所自体が少ないことに加えて、そのような事業所を3カ所も運営している法人は全国的にも珍しいようです。

相談支援事業を行うことで、法人全体にかかる負荷は決して軽いものではないのですが、山彦が地域に育ててもらった恩返しとしての、地域貢献としての意味合いが大きい事業であることから、この10年近くの期間、それぞれの地域で活動をしてきました。

3カ所の相談支援事業所は、それぞれ別々の事業所なので担当利用者の守秘義務に関しては厳格に守っています。た

だ将来的に3所の統合も視野に入れながら、支援の質の向上や効率化のために業務管理のやり方や情報交換を行っていきます。

話し合いの頻度は、今年度は2週間に1回の割合で行っています。コロナ禍ということもありオンラインも交えながらやってきました。それに加えて12月からは毎週月曜日の朝にオンラインでの顔合わせをしています。その週の予定やトピックス的なことを報告し合っています。今は顔を合わせることで、それが一番の目的となつていますが、つながりが強くなつてきている実感が得られます。

相談支援事業には、人と人、事業所と人等々と「つなげる」役割があるので、まずは3所がつながりながら、例えばヘルパー事業所探しやホーム探し等々と、様々な面で協力し合うことで、より利用者に対して安心出来る支援を提供出来ると考えています。早いものでまもなく開所10年が経とうとしています。

（池田）

やまびこ第二 練馬区長訪問と施設内覧会の報告

11月22日に練馬区長と副区長が訪問されました。23日の勤労感謝の翌日の24、25日と内覧会を行いました。この二つの取り組みに関しては、一緒に活動している「こぶし事業所」「はじめのいっぽ春日町」そして練馬区とも相談をしながら進めました。

●前川練馬区長の訪問

練馬区の土地に、民間団体が建物を立てて、別の2力所の民間団体と一緒に活動をしている。それぞれが練馬区や東京都の制度を使ってこまめな「こぶし事業所」で、家賃を払って入ったのは「はじめのいっぽ春日町」と「やまびこ第二作業所」です。このようなことは初めての試みだったようです。

そのような理由で、11月22日に練馬区前川区長が来られました。短い時間ではありましたが練馬区長が来られたことで、職員、利用者一同とも「しっかり活動していこう」

と気持ちを新たにしたい1日でした。

●施設内覧会

前川区長の訪問後、23日の勤労感謝の日を期して翌日の24日、25日の午後に内覧会を行いました。招待した方々は3団体と関わりがある地域住民の方、関係機関の方、ボラ団体の方等々でした。わざわざお越し頂いて感謝致してお



ります。日頃の作業等の活動はそのまま行っていたので、本当に日頃を見て頂くことになり、それで良かったのか・・・どうだったのか・・・と少し後悔も残ります。3団体で約40名強の方にお越し頂きました。ありがとうございます。

個人情報保護の観点から、どの誰とは言えないのですが、当日はやまびこ第二作業所の開所に関わって下さったAさんが来られました。私もお会いするのは久しぶりだったのですが、お元気そうなお姿を拝見できて嬉しかったです。開所時のエピソードを聴かせて頂いたり、交流が出来たことは大きな喜びにもなりました。精神保健福祉の雑誌「ゆうゆう」があるのですが、実はその創刊号に「やまびこ第二作業所開所」が特集として記事になっていました。周りの住民からの反対運動があった時代、この練馬区の北町の地域においては、それとはまったく逆に「地域の方と保健所の要望で出来た作業所」とあります。その創刊号が引っ越しの整理の中で、数十年前ぶりに姿を見せてくれたのです。

内覧会の当日に、私はAさんにその記事を見て頂きました。Aさんは懐かしそうに記事を見ながら「実はね・・・」と、当時の裏話をお話してくれました。

その内容は、今の時代ではあり得ないことで、40年近く経った今でも記事にするには躊躇いがあるほどの内容でした。「そこまで地域の方々に支えられていたのか・・・」との思いを新たにすることができました。

内覧会は歴史に触れることでもあり、普段会えない方とも会える機会でもありました。開所当時に託された使命や思いを再度教えてもらったと思います。

お越しいただいた方、協力して頂いた方々に感謝しております。



きょうされん第46次国会請願署名・募金運動 ご協力お願いします

今年も署名活動の時期がやってきました。国会請願署名とは障害のあるかたやそこで働く人たちの思いや要望を直接国会議員の方々へ請願署名として伝えるものです。この署名が厚生労働委員会で採択され、本会議でも採択されることで新しい法律にもつながる大事な署名です。また、私たちの思いを国会議員の方々に直接手渡しできる貴重な機会でもあります。ぜひ、皆様のご協力をよろしくお願いします。いただいた募金は請願活動資金やきょうされん活動など福祉の向上に遣わせて頂きます。添付の署名用紙にご記入の上、事業所まで郵送してください。署名のご記入の際は、「〃」「々」等は使わず、すべてお書き下さるようお願いいたします。

きょうされん
第46次

あ
たりまえに
はた、りき
え、りべる
く、りしを

2022
12月
2023
04月

◀群馬県一部:
ふひなず(熊本興)

国会請願署名・募金運動
全国キャンペーン



▲田嶋力(あはら)「アハル」



◀岐阜由香(平井) 市巻院(馬):
ともの家(静岡県)

PROPERTY
OF
Thruvaton
HENLOPH
23



障害者権利条約を地域のすみずみに
障害のある人びとを支える
制度づくりのための
署名・募金にご協力ください



鎌倉 幸子



西澤 幸子



竹下 幸子

社会福祉法人
練馬山彦福祉会

わたしたちも応援しています

■全国キャンペーン本部
〒164-0001 東京都練馬区山手1-1-1 練馬山彦福祉会 本部
TEL 03-3568-2222 FAX 03-3568-2223 E-MAIL info@shinobu.or.jp

やまびこのペン

上之原 幸子

スマホの地図アプリが使えない（使物にならない）という話を目が不自由な利用者さんから聞きました。打ち込んだ住所まではナビが案内してくれますが、同じ住所に複数の建物がある場合どれが目的の建物なのか分からない。ナビを使いながら歩くと、ナビの位置情報と自分がいる場所にズレがあるため曲がろうとしても道がない。行ったことがある場所なら使えるけど初めて行く場所には使えない・・・と話していました。

その話を聞いて私自身も同じように感じた記憶があります。一昔前のGPSは精度が悪く、位置情報が送られるまでに時間が掛かり位置もかなりずれていたもので、駅付近の区画が細かい場所ではどの道を曲がれば良いのか分からず迷った経験があったこと、それ以前はスマートフォンが存在していなかったことなど思い出して話を返すと、「え？あーそうですよね。便利になつて良かったです。」と利用者さんが話を合わせてくれました。LTEから3G、4G、5Gと通信速度が上がり、

スマホはサクサク動いて当たり前になっているZ世代の利用者さんにとっては、一昔前の地図アプリと同じ感覚なのだと思います。

ここ10年くらいでスマホ所有率が急増し便利な機能やアプリが続々と増えています。スマホを使用するようになって一番便利だと感じるのは、カメラ機能が搭載されていることです。デジタルカメラ同様画素数が多くクリアに撮れます。現像に出さなくてもメールやSNSを使って見せたい相手に送ったり、気に入った写真に文字や絵を加えてアルバムを簡単に作成することも可能です。更に、デジタルで保管できるので場所をとらず色あせることもありません。凄い進歩です。

ところが最近、若者の間では40年以上も前に流行したフィルムカメラが流行っているようです。画像の荒さ・現像に出す行程も含めて「エモい」とのこと。多くの機能を備えた画質の良いスマホやデジカメではなく、なぜ『写るんです（商品名）』なのか？自動販売機で水やお茶を販売された時と同じように衝撃を受けました（無料で飲める水やお茶をなぜ販売するのか当時は理解できませんでした）。時代が変化し海外の影響も受けて考え方や好みなどが多様化しています。人それぞれ価値観は違うのだと改めて感じました。別の利用者さんから、「オープンチャットで強制退会させられて落ち込んでいます。つい、熱くなっちゃった。」と相談を受けたことがあります。好みが同じ他人同士が、年齢・性別・仕事など個人情報を開示せずにインターネット上に集まり書き込みをします。様々な価値観を持った人達が集まっている場なので、発信の仕方によっては攻撃を受ける場となります。見ている分には被害はありませんが、発信するにはリスクを伴う覚悟が必要である事や「このオプチャは自分に合わなかったので他を探そう」と気持ちを切り替えることも大切である事を伝えました。

地図アプリが使い物にならないと言っていた利用者さん・オープンチャットを退会させられた利用者さんの話を親身に聞くことができたのは、自分自身が体験したからだと思います。利用者さんたちの言葉や気持ちを理解する上でも、自分自身が時代に置いていかれないためにも、新しいことをたくさん吸収していきたいです。



やまびこのかぜ

ワークシヨップ石神井

（小鯨逆魚（こくじらさかな））

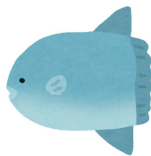
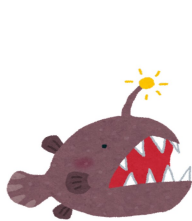
ペンネーム小鯨逆魚（こくじらさかな）さんの詩をご紹介します。小鯨逆魚さんは、ワークシヨップ石神井に30年来通所されている方です。60代となった今でも週4日通所し、マイペースで頑張っています。

今回はそんな小鯨逆魚さんが書き溜めていた作品の中から2編をご紹介します。

海底24

みちびきだした 答えがソレナラ
好きにすればいい
ぼくは かまわない
かんしょうしない
いっそ このまま どこまでも
つきあってくれないか

フタをした ぼくは自分のきもちに
深海魚のすむ海底まで
ユメダッタ ユメニおわってしまった



まよなか

あなたの声に 抱かれてる
毎週きいてるD.J
たまりに たまったテープは
105本
とおしナンバーつけてたけど
もうやめた
もう 限界



編集後記

明けましておめでとうございます。
新しい年がやってきました。穏やかに
新年を迎えられることの有難さが身に
沁みます。この一年が世界中の人々に
とって平和で穏やかな年になるよう願
って止みません。

（渡辺）

編集人

社会福祉法人
練馬山彦福祉会

東京都練馬区
富士見台2-19-9
TEL (03) 3998-5023

発行人

障害者定期刊行物協会

東京都世田谷区
祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ102号室

頒価 20円